



考えよう! 上越地域の医療体制

第1部：基調講演

「上越地域の 地域医療を考える」

城西大学経営学部 教授 伊関 友伸 氏

第2部：パネルディスカッション

「考えよう！ 上越地域の医療体制」

■パネリスト

城西大学経営学部 教授 伊関 友伸 氏
他、参加者には地元上越市 健康福祉部、県内の
地域医療再編を経験した医療従事者、自治
体議員の方々を予定しています。

参加の
ご案内

定員450人(先着順)
事前に参加申込は不要です。

日時

2024年**9月21日**±

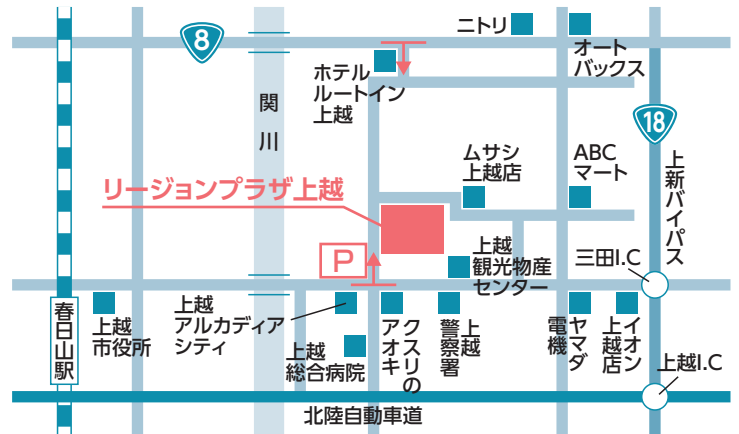
午後**1時45分**～午後**4時30分**
(開場 午後1時30分より)

参加費
無料

会場

**リージョンプラザ上越
コンサートホール**

〒942-0063 上越市下門前446-2
電話:025-544-2122



お問い合わせ

自治労新潟県本部 電話:025-281-8020 Fax:025-282-3211

主催：「考えよう！上越地域の医療体制」実行委員会

後援：連合新潟、自治労新潟県本部、新潟県職員労働組合、新潟県厚生連労働組合、新潟県医療関連労働組合協議会

救急患者を診る病院が圏域内1つになっても大丈夫なの？



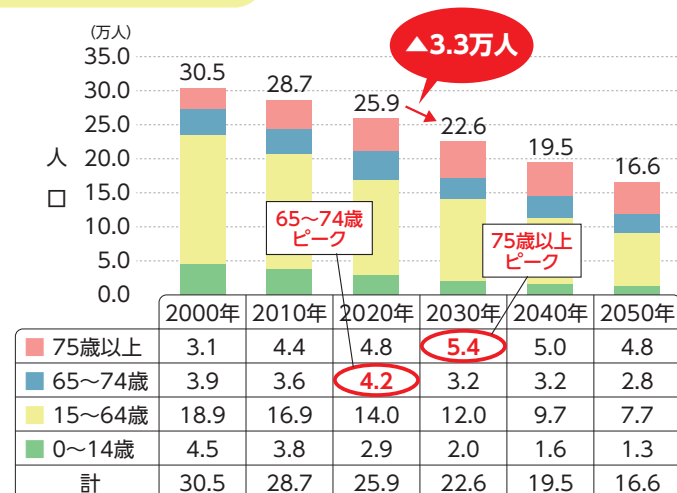
2023年6月の上越地域医療構想調整会議で、新潟労災病院の医療機能を市内の他病院へ集約した後に閉院することが唐突に発表されました。2026年3月まで閉院することも決まっています。

さらに県立中央病院・上越総合病院・上越地域医療センターを、急性期医療(救急患者や各種専門医療)を担う「中核病院」と、回復期患者(状態が安定している患者)を診る「地域包括ケア病院」に再編・集約することも決まりました。

上越市内の救急対応がひっ迫する恐れ

上越の救急患者受け入れは、ほとんど市内3病院で完結しています。新たな中核病院に患者が集中すると、待ち時間も長くなりますし、対応する職員の負担が増えます。また、図のとおり、上越圏域全体(上越市、妙高市、糸魚川市)の人口は減っていきませんが、2050年までは、医療需要の高い65歳以上の高齢者の人口は、ほぼ現状維持されると予想されます。

県立中央病院も上越総合病院も長い年月をかけて、地域に根ざした、なくてはならない病院です。中核病院に集約するのではなく、高田地区と直江津地区にそれぞれに通いやすい病院を残すべきではないでしょうか。



資料:国勢調査(総務省)、『日本の地域別将来推計人口』(令和5(2023)年推計)(国立社会保障・人口問題研究所)



深刻な看護師・医師不足

昨年度、県立中央病院では、看護師の欠員が50人以上発生し、診療制限を余儀なくされました。約500人の看護師が働いていますが、そのうちの3割は下越地区方面の出身者です。再編により県立中央病院が県立病院のネットワークから外れると、人事異動ができなくなり看護師不足がさらに加速する恐れがあります。

県立病院と厚生連の財政問題

県立病院と厚生連病院の経営赤字が問題となっていますが、公立・公的病院が地域で果たすべき役割は財政問題とは別次元のはずです。病院の経営努力だけではなく、国・県・市などの行政からの支援を強化しなければ、私たちの地域から通院できる病院が無くなってしまわないでしょうか。



一緒に上越の地域医療を考えてみませんか

上越医療圏域(上越市・妙高市・糸魚川市)の地域住民・医療従事者の皆さんへ情報提供するとともに、医療再編について考えるきっかけの一助になればとの思いで、シンポジウムを開催いたします。多くの皆さんの参加をお待ちしています。